

第4回定例会の主な日程

令和5年第4回定例会は、左記の会期日程で開催されました。

12月6日(水)	本会	議	(開会、知事提出議案説明)
12月11日(月)	本会	議	
12月12日(火)	本会	議	
12月13日(水)	本会	議	(一般質問・質疑)
12月14日(木)	常任委員会	議	
12月18日(月)	本会	議	
12月19日(火)	本会	議	(予算関係議案常任委員長報告等)
12月20日(水)	本会	議	誰かが輝く持続可能な茨城を担う人づくり調査特別委員会
12月21日(木)	本会	議	県有施設・県出資団体等調査特別委員会
12月22日(金)	本会	議	(委員長報告、採決、閉会)

一般質問(要旨)

●質問者

12月11日(月) 鈴木 将 議員 (いばらき自民党)

12月12日(火) 秋 嘉一 議員 (無所属) 木本 信太郎 議員 (いばらき自民党)

12月13日(水) 水柿 一俊 議員 (いばらき自民党) 石塚 隼人 議員 (いばらき自民党) 黒部 博英 議員 (いばらき自民党)

12月14日(木) 横田 透 議員 (いばらき自民党) 設楽 詠美子 議員 (立憲 いばらき)

12月15日(金) 下路 健次郎 議員 (いばらき自民党)

こちらから録画映像でご覧になれます▶
https://ibaraki-pref.stream.jfit.co.jp/?tpl=gikai_result&gikai_id=166



鈴木 将 議員
いばらき自民党
つくば市選出

本県産業の躍進

議員 わが国の低迷を盛り返すためには、本県産業が躍進し、日本全体をけん引していくことが求められる。企業誘致と人材育成の観点から、本県産業の躍進に向けて、どのように取り組んでいくのか。

知事 戦略的な企業誘致を展開し、産業用地の確保については、市町村の開発への支援を含め、スピード感を持って対応していく。また、デジタルスキルを中心にリスキリングを推進するとともに、高度IT人材の育成を強化していく。

望まない孤独・孤立への対策

議員 どの世代にも幅広く該当する社会的孤立の問題を巡り、「孤独・孤立対策推進法」が令和6年4月から施行される。これを踏まえ、望まない孤独・孤立への対策をどのように進めていくのか。

福祉部長 まずは庁内関係課や民間団体などと連携し、孤独・孤立問題の情報や課題の共有を図るとともに、孤独・孤立対策をより効果的に推進するための連携の仕組みなどについて検討を進めていく。

産業用地の開発が進むひたちなか地区



産業用地の開発が進むひたちなか地区



秋 嘉一 議員
無所属
神栖市選出

鹿島港における荷役設備の充実化

議員 鹿島港にあるガントリークレーン※1を、貨物の集荷促進のために増設すべきと考えるが、増設の具体的計画や将来ビジョンは。

土木部長 利用者ニーズや貨物の動向など、需要見込みを踏まえる必要があるため、貨物集荷および定期コンテナ航路の増便など、鹿島港の利用促進に取り組むことが重要と考える。今後のコンテナ貨物の集荷状況などを踏まえながら、ガントリークレーンの増設を含めた港湾機能の拡充を検討していく。

医師不足、医師偏在解消の实效的対策

議員 本県医療行政の展望および医師偏在解消の目標と具体策は。

保健医療部長 医療需要の変化の中でも良質な医療を提供するため、地域医療構想調整会議で各医療機関の役割分担などを議論している。政策医療を担う医療機関に医師が適切に配置されるよう、最優先医療機関の医師確保に取り組みしており、現在、地域枠制度※2の見直しも検討している。

(ほかに、鹿島港の物流機能の強化に向けた高速道路・周辺道路の整備、養殖産業の振興なども質問)



鹿島港北公共埠頭におけるコンテナ荷役状況

御前山県立自然公園の安全と魅力の向上

議員 御前山県立自然公園について、常陸国ロングトレイルとの一体的な整備や登山アプリ「ヤママップ」※3の活用など、安全と魅力の向上が必要と考えるが、所見は。

知事 常陸国ロングトレイルと御前山地域の一体的な整備を図っていく。また、ヤママップの活用も有効と考える。県としては、さまざまな主体と連携しながら、安全と魅力の向上に取り組んでいく。

茨城県地域医療構想



御前山と那珂川大橋

議員 県が県立病院の在り方などを率先して示すことで、早期に水戸地域医療構想調整会議の議論をまとめていただきたいが、所見は。

知事 県立中央病院は、高度な医療の提供体制を強化するとともに、新興感染症などの政策医療を中心的に担う意向を示しているが、公的医療機関などの役割分担の整理が必要である。県としては、同会議における議論を加速させ、地域のニーズに応える医療提供体制の構築に取り組んでいく。



横田 透 議員
いばらき自民党
つくばみらい市選出

稲作農家への支援

議員 県の施策では、需要に応じた米生産を推進していく方針である。稲作農家支援のため、県産米のイメージアップや輸出拡大に取り組み、国内外の米の需要拡大に取り組んでもらいたい。所見は。

農林水産部長 コンテスト開催による県産米の認知度向上や米粉の活用促進、海外の消費者ニーズの把握・分析による輸出拡大など、国内外の需要拡大を進め、意欲ある稲作農家が儲かる農業を実現できよう、後押しをしていく。

児童・生徒の可能性を引き出す教育

議員 児童・生徒の可能性を引き出し、さらに伸ばすため、先進的な取り組みの拡充や教員育成に取り組んでもらいたい。所見は。

教育長 学校教育の中で課題解決力の育成や国際教育の推進などに取り組んでおり、好事例を周知し、広く実践を促していく。また、民間企業への派遣やさまざまな分野の研修などにより幅広い知見を持った教員の育成に努めていく。

(ほかに、スポーツツーリズムの推進、小規模事業者への支援なども質問)



「IBARAKIドリームバス事業※4」第4回大会で総合グランプリを獲得した石下紫峰高等学校



設楽 詠美子 議員
立憲 いばらき
筑西市選出

茨城県の有機農業の拡大とオーガニック学校給食の実現のための予算確保

議員 有機農業を拡大していくとともに、有機農産物を取り入れるための学校給食の予算の確保について、県全体として取り組むことが重要と考えるが、所見は。

知事 有機農産物の需要拡大が続く中、旺盛なニーズに応えられるよう、一層強力に生産拡大を推進していく。学校給食での提供は、市町村自らが予算面も含めて判断すべきであるが、県内の先進事例を見つつ、どういう形で支援できるか検討する段階であると考える。

教育現場での外国籍の児童生徒、保護者に対する多言語対応と相談体制の充実、異文化理解

議員 教育現場での児童・生徒、保護者に対する多言語対応などについてどのように考えるのか。

教育長 児童・生徒や保護者には、日本語の初期指導や就学支援などを実施している。高校などへの進学サポートとして、今年度から全県で4言語でのオンラインガイダンスを始めた。また、学校の授業での実践や好事例を県内に広め異文化理解の風土を醸成していく。

(ほかに、看護師不足並びに偏在の解消、栄養教諭等の茨城県独自の配置基準の創設なども質問)



学校給食で提供された有機農産物を味わう児童(龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校提供)

※3【ヤママップ(YAMAP)】…スマートフォンの電波が届かない場所でも現在地が分かる登山地図GPSアプリで、協定を締結した自治体に関しては、アプリからオンラインで登山届を提出することが可能。
 ※4【IBARAKIドリームバス事業】…高校生などを対象に、地域の課題解決や自分の夢実現に向けた企画立案・実践活動を通して、アントレプレナーシップ(起業家精神)を育成することを目的とした事業。